

19日 庄内たがわ農協総代会 米穀販売高 141%伸び

庄内たがわ農協（海藤喜久男組合長）の第31回通常総代会が6月19日（金）、いりり火の里なの花ホール（三川町）で開かれます。任期3年の役員改選より、米穀販売高は17年産米の価格高騰により、米穀販売高は1

で、5月18日の推薦会議で推薦された理事23人と監事6人の表決が行われます。平成6年産米に続き7年産米の価格高騰に本支所施設の再編で、2000年以降では最高額、前年比141%の伸びです。令和7年2月に、新

庄内たがわ農協 合併前との比較(単位:千円)

	基準年1993年 平成5年度	2023年度 令和5年度	2024年度 令和6年度	2025年度 令和7年度	前年度との対比	基準年との対比	
正組合員数(人)	16,876	10,665	10,338	10,075	97.5%	59.7%	正組合員数(人)
職員数(人)	1,123	359	352	339	96.3%	30.2%	職員数(人)
資産	117,589,340	130,520,330	133,217,232	141,849,799	106.5%	120.6%	資産
負債	111,618,080	121,368,123	124,485,411	133,200,745	107.0%	119.3%	負債
資本(純資産)	5,971,260	9,152,207	8,731,820	8,649,054	99.1%	144.8%	資本(純資産)
当期剰余金	93,323	197,896	225,510	472,840	209.7%	506.7%	当期剰余金
貯金	96,633,096	115,317,411	117,482,647	125,465,826	106.8%	129.8%	貯金
貸出金	36,394,244	32,957,356	34,632,172	36,006,200	104.0%	98.9%	貸出金
長期共済保有高	665,528,140	398,848,684	386,155,032	374,272,408	96.9%	56.2%	長期共済保有高
購買	19,815,583	3,530,498	3,422,070	3,607,814	105.4%	18.2%	購買
販売	30,276,797	12,784,904	14,505,611	19,153,001	132.0%	63.3%	販売
(米穀)	24,149,280	10,513,397	12,109,236	17,144,717	141.6%	71.0%	(米穀)
(園特)	3,263,811	1,479,279	1,699,390	1,372,591	80.8%	42.1%	(園特)
(畜産)	2,863,706	734,988	631,068	567,712	90.0%	19.8%	(畜産)
(産直店舗)		57,238	65,916	67,980	103.1%	-	(産直店舗)
自己資本比率		13.88%	13.63%	13.80%			自己資本比率

合併は1995年（平7）。職員数は合併直前との比較。臨時職員含む。
(株)あいとサービス2014年8月1日設立。燃料・葬祭が10月1日から、農機・車両が1月1日から事業開始

各農協の出資金等の比較

	JA庄内たがわ	JA鶴岡	JAあまるめ
正1人当出資金	350,429円	292,712円	815,531円
正1戸当出資金	453,802円	440,850円	992,486円
正1戸当販売額	2,461,825円	3,531,668円	2,996,664円
正1戸当購買額	463,729円	1,858,030円	1,433,180円
自己資本比率	13.80%	13.76%	16.59%
出資配当	-	-	2.0%
特別配当	-	-	米1俵 200円 畜産販売高 1.0% 産直出荷物 4.0% 肥料農薬 1.0%

※JA庄内たがわの購買額は(株)あいとサービス除く

※JAあまるめの購買額はコープ除く。農機含む

(2026年度総代会・総会資料より)

余目支所と立川支所を統合し北部支所に、同年4月に、櫛引支所と朝日支所を機能再編し南部支所立ち上げ。令和8年4月に、温海支所を南部支所の「温海地域センター」とし、「営農センター」を設置しました。南部支所（旧櫛引支所）は老朽化に伴い、移転の計画を進めます。櫛引地域の常磐木字関口の中古建物及び土地の固定資産取得議案が提案されます。土地は20133.88㎡、8400万5千円、建物4棟（改修含む）3億6755万円、合計4億5155万5千円です。南部支所の営農事業は引き続き、既存の事務所で行われます。南部支所の信用事業と朝日出張所は、新事務所統合の計画です。



(総代会資料から)

学識経験女性理事に、鶴岡市農業経営者育成学校SEADS2期生卒業の青木麻衣さん（写真42・幕野内・農事組合法人三和あぐり就職）が推薦されています。

女性の選任では、2月17日の臨時総代会で、理事の定数を3人減とし、学識経験理事を1人から2人に1人増やし、女性理事の枠を設けました。

女性理事枠に青木麻衣さん

温海地域センターは、既存の事務所で事業が実施されます。

●JA庄内たがわ役員候補者推薦区域定数

区域	理事	監事
温海	2	1
朝日	2	
新余目	3	1
立川	2	
三川	3	1
藤島	5→4	
櫛引	3→2	1
羽黒	4→3	
合計	24→21	4

●理事会推薦役員候補者定数

理事会選出役員	定数
学識理事	1→2
学識監事	1
員外監事	1

渡前小子ども獅子踊り今昔物語

藁(わら)文化の里 ⑤

渡前獅子踊り保存会 太田功

「夏草や兵どもが夢の跡」と「閑さや岩にしみ入る蟬の声」は、松尾芭蕉が距離にして6百里、およそ150日に及んだ奥の細道で詠まれた代表的な夏の俳句であるが、その間、「蚤虱馬の尿する枕もと」と尿前の関で詠んだ句がある。

先日、親族が集まり60年以上も前の昔話で盛り上がった。

年端もいかぬ小学生前の筆者が、ロフトと言えば格好良いが、納屋倉の屋根裏部屋で、毎晩祖母と寝ていた。

晩飯を終えれば外靴を履き、はしごで上がった先は、夏は夜になっても冷めない屋根瓦の熱気が野地板の隙間

から伝わってくる。

足元ではむき出しの垂木や母屋の柱材に何度もおでこを当てたものである。

奥には、灰(あく)

の入った「おまる」(語源の由来辞典では形状が、虎の子に似ていることから御虎子の字が当てられる)がセットさ

れており、虱の記憶はないがゴマ粒のような蚤には悩まされた。

痒さに耐えきれず起きてはその飛び跳ねる主を探した。

敵はもう一つ。中味が綿でない布団にあった。「子もぢ布団」と言われていたか。裁断機のでかい物でカットした藁ならましな

方で、穂先のチクチクするものが大量に入っていたからだ。

ある日は、祖父の深酒後の寝たばこが原因で、いわゆるロフト内は煙で充満し、布団の一部が赤く染まっていたことが、



聞蛙声

蛙声を聞く

城貞(藤の花)

野田沼沢噪新蛙

野田 沼沢 新蛙 噪ぐ

蝌蚪水温潑漑加

蝌蚪 水温 潑漑 加わる

古往今来姿不変

古往 今来 姿 変らず

黒雲帯雨坐魚譁

黒雲 雨を帯びて坐魚 譁し

野の田やみずたまりで カエルが鳴きだした。

オタマジャクシは 水が暖かくなり ますます元気がよくなり 動きを増してきた。

昔から今に至るまで カエルの形・様子は全く変化していない。

雨雲が出てきて、カエルは喜び さわがしくなった。

蛙声 蛙の鳴き声。沼沢 みずたまりや湿地帯。

新蛙 今年の蛙。蝌蚪 オタマジャクシ。

潑漑 生き生きとして元気のよいさま。

加 さらさら。古往今来 昔から今に至るまで。

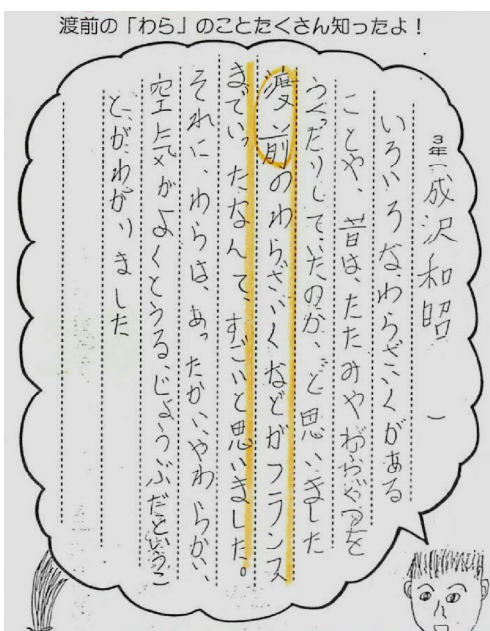
姿 形や様子。黒雲 雨雲。坐魚 蛙。譁 さわがしい。



脳裏から離れない。

小野寺勇治氏の授業で、児童成沢和昭君は、「藁が温かく、柔らかく、空気が通り、丈夫であること」を学んでくれたが、脳の引き出しからいまだ消えぬ苦

い幼少の時代を経験した筆者は、藁の効能はすぐには浮かばず、芭蕉にすまないが、夏になると涼しげな俳句よりも、馬の登場する句を真っ先に思い浮かべしてしまう。…(つづく)



怪しい法律

いつかも書いたが法律は、出来てしまえば改正・改正を重ねていき、別のモノになる危険性があるんだ。顕著な例として挙げたいのが、警察予備隊だ。

目的は、米国の要求による再軍備のためのモノだったが、時の首相吉田茂は、警察に毛の生えたようなものだよ。と、答弁していたもの。それがどうなっているか。敵の攻撃がなくなるとも先制攻撃ができると言いつつ、防衛費と称しては巨額をつぎ込んで、立派な軍隊に成長しているでしょ。

▲中曽根さんは今の消費税を売上税と言っていたと思うが、羊が毛を抜かれたことに気が付かないようなと言った税率。竹下さんに3%で始められ、安倍さんから今では痛いイタイ10%でしょ。財界の

要求はもつと上なんだという。消費税率が上がるたびに法人税は下がってきたからネ。

▲近頃怪しい法律ができた。国家情報会議を作るんだという。秘密保護法が、何が秘密かわからないように、何が国家情報か分からないんだ。首相は、時の政権に批判的な行動をする団体や抗議デモに参加する国民への監視についての質問に、普通の市民が監視の対象になることは想定しがたい、と答弁しているが、普通の市民ってどんな人?定義は怪しい。

▲戦時を想定しての法整備の一環でしょ。と思えば、先の戦時中はどうであったか、戦争反対を言っただけでシヨッピーカレ、顔が無くなるほどぶん殴られたんだゾ。この人はまた、政府を批判する番組が多いと、放送の許可を取り消すと言った人だ(石川)